



# 学校だより

2月号  
横浜市立桜台小学校  
令和6年1月31日発行



HPはこちらから

## 振り返りとまとめ、これからに向けて

副校長 柴 諭

早いもので、令和5年度もあと2か月を残すところとなりました。学校でよく耳にする言葉として、「行く1月、逃げる2月、去る3月」というものがありますが、じっくりと事を構えるのが難しい、あっという間の体感時間をよく表している言葉だと思います。今のクラスの仲間で集い、担任やそれぞれの担当の先生と共に学ぶことのできる残りの2か月は、今年度の自分の成長や頑張り、課題を丁寧に振り返り、また、来年度の目標を決めていくための大切な時期となります。

さて「自分の成長や頑張りを振り返る」時に、テストの結果などももちろん参考になりますが、自分自身のよさは、なかなか自分では気づきにくく、意識できないこともあるものです。そんな時は、周りにいる他の人から見た様子も参考になることでしょう。一人ひとり、というよりは大きく全体的な話になってしまいますが、1月の取組を振り返って感じた桜台小のみなさんの素敵などころをいくつか紹介してみようと思います。

- ・ 1月16日（火）中休みの途中に地震を想定した予告なしの避難訓練がありました。休み時間ということもあり、委員会活動をしていた人もいれば、廊下や階段、校庭など教室ではない場所にいた人もいたはずですが、担任の先生など「指示を出してくれる人がいない」状況にあった人も少なからずいたはずでしたが、この日も子どもたちは「自分の命を守るためにどうすればよいのか」を自分で考え、ふざけたり、おしゃべりをしてしまったりすることなく落ち着いた行動を選択することができていました。校庭への避難もとてもスムーズで、全員の無事を確認するまでの時間もとても短く済みました。桜台小ではいつも通りのこの光景は、実は、どこでも見られるものではありません。
- ・ 1月22日（月）4年生の校外学習「こころの教育バレエの世界」の引率として子どもたちと一緒に関内ホール・大棧橋方面まで行ってきました。保土ヶ谷駅までの往復や、電車内でのマナーのよさや、互いに声を掛け合いながらその場に応じた態度と行動をとろうとする姿が印象的でした。来年からは“高学年”として学校を引っ張っていく立場になることを意識しているのだろうと感じる姿でした。また、鍛え抜かれた身体表現で表されるバレエの世界を全身で感じ取りながら鑑賞し、素晴らしい動きやおもしろさに拍手を送る、気持ちの素直さや感じる心の豊かさが印象的でした。今まで、様々なものに触れて心を動かしてきた経験の積み重ねや、事前の指導なども加わってのものと思いますが、これも当たり前前にみられるものではありません。
- ・ 1月26日（火）3年生は保土ヶ谷区の音楽会に参加してきました。私は、音楽会本番に先がけて、23日（火）の音楽朝会で3年生の歌声が全校の皆さんに披露されたものと、音楽会当日の発表を記録した動画を見せてもらいました。曲ごとに学年を二つに分けていたので、50人弱という人数だったにも関わらず、ホール全体に響き渡っていた歌声は素晴らしいものでした。また、印象的だったのは、どきどきと緊張しながらも、自分たちが練習してきた成果をしっかりと出そうとする気持ちに加え、音楽を心から楽しんでいる様子が一人ひとりの表情から見て取れたことです。指揮を務めた先生は、こんな表情でひたむきに歌う姿を目の前で見て、思うところが多くあったと思います。



どの素敵な姿も、一朝一夕ではたどり着くことができない桜台小の「風土」とも呼べるようなものと感じます。そして、いずれも子どもたちだけではなく、指導したり関わったりしてきた教職員や、それぞれのご家庭、地域のすべてがその形成に大きく携わっています。

振り返りとまとめをしていくこれからの時期に、それぞれの教室で、ご家庭で、地域で、子どもたちの成長や頑張りや素敵な姿が共有され、次年度以降の更なる発展につなげていくことができるよう願っています。